



「スムーズポイントアップキャンペーン」は、**弱点であった「スムーズ」項目を向上させるもの**で、過去6カ月の得点と比べた向上率も評価対象とし、全社的な技術レベルの底上げを狙いました。データ・テックからのアドバイスと各拠点からヒアリングした得点アップのコツを虎の巻として配信することで、**本社と事業所の垣根を越えた情報共有**ができました。このキャンペーンでは営業車も対象としており、営業車の運転も安全運転が必要であるという認識を向上させることもできました(図2、3)。

## 運輸安全マネジメントへの取り組み 徹底したドライバー、管理者教育を実施

弊社は、管理者やドライバーのための運転技術研修やコンテストなど、様々な「**運輸安全マネジメントの取り組み**」も行っています(下記1~8参照)。「安全はすべてに優先する」を掲げていますが、現場は効率が優先になりがちです。これを踏まえ、**経営者から所長や運行管理者に安全への姿勢**

**や心構えを明確に伝えます。**

また管理者は、事故発生時にはドライバーとともに現場へ行き、状況を確認。SRデータを元に事故原因を分析し、具体的な防止策を共に考えさせます。経営陣は、「**事故を起こしたのはドライバーの責任、事故を防げなかったのは管理者の責任**」と徹底して伝えていきます。

## 軽微な事故の歯止めにSRを 事故検証ではなく予防に使う

SR導入後、2011年までは事故削減効果がありましたが、2012年から現在まで、事故件数が増加傾向にあります。**納品先や社内構内でのバック事故が減らず、入社2年未満のドライバーが約60%を占めます(グラフ)**。

人材不足による採用基準の低下、運転指導のバラツキに要因があります。今後の課題は、「(SRを)事故検証ではなく、事故の予防に使うこと」であり、**事故の前兆を見逃さないよう、SRをきちんと使いこなしていくことが課題**です。

### ① 新人ドライバー研修



写真2「新人ドライバー研修(左)」と「採用後研修(右)」。採用後研修は入社2、3年目のドライバーが対象で、初心に戻り運転技術を磨くもの。外部指導者を招き、SRデータから危険マップを作成し、研修内で分析・発表し合う

### ② 採用後研修



### ③ 運行管理者研修



写真3「運行管理者研修」は、新任の管理者を対象とし、SRの運用や「安全の達人」による指導方法の研修を行う。事故やレッドカード発生時の対処法や、SRの記録画像による確認や指導などの実践的な内容が学べる。右は整備管理者研修の様子

### ④ 整備管理者研修



### ⑤ エコドライブ講習



### ⑥ 事故惹起者講習



### ⑦ ドライバーコンテスト



写真5「ドライバーコンテスト」は、選り抜きのドライバーの中から法令、点検、運転技術、省燃費運転などを多角的に審査し、No.1を決定。当日の成績だけでなく、日頃からSR高得点を維持しないと上位入賞ができない。コンテスト参加者のSR平均点(過去10カ月)は、99点以上でコン1を競うハイレベルの闘いだ



写真4「エコドライブ講習(左)」や「事故惹起者講習(右)」でもSRデータを元にした具体的な講習を実施。特に事故惹起者は、運転癖や不安全行動をSRデータで指摘することで、自分の運転の危うさについて本質的な振り返りができる

### ⑧ 安全への取り組み

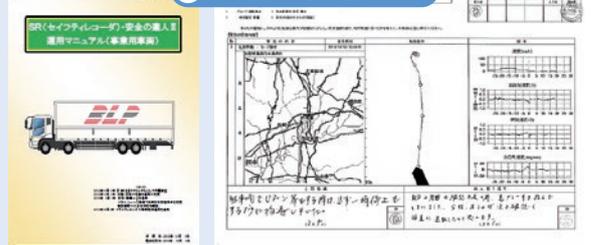
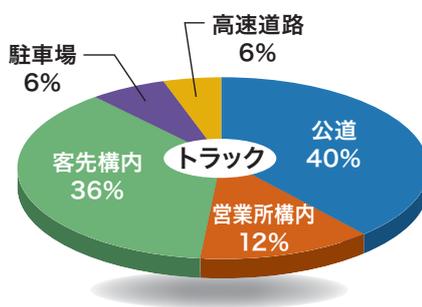


図4「安全への取り組み～レッドカード運用～」は、レッドカードが出た場合、ドライバーと管理者のコメントを記載し本社へ提出させる仕組み



グラフ左内の①は、エコドライブ活動による効果、②は、SRVideo導入効果によるもの(2005~2017年までの自責事故件数の推移)

グラフ右は、最近の自責事故の内容(トラック)。公道より構内事故のほうが多い

# SR取り組みの達人たちから 効果が出るSR運用の糸口を学ぶ



様々な現場で大活躍するSR。SR導入済みの企業様で日々、着実に導入効果を上げています。ちょっとした工夫や気づきが運用効果を2倍、3倍にしています。その達人たちの声を聞いてみましょう。



## トラック、営業車両でSRを活用

### 株式会社 イワタ輸送センター 様

#### >SR導入の経緯

年12件と車両事故が多発。法改正でデジタコ導入が必要になり、現状打破をするためSRを導入。

#### >SRを使った取り組み

月初に目標点数をドライバーが宣言。全ドライバーの得点を社内に掲示し、月平均最高得点者にQUOカードを進呈。低得点者は、高得点者との同乗教習を行う。定期的に、SR筆記試験を実施し、ドライバーに診断ポイントを頭で理解させる。SR定着化アンケートでドライバーの声を聞き、マンネリ化を防止することで効果アップを図っている。



### 株式会社 八洋 様

#### >SR導入の経緯

約7年前に重大な交通事故が発生。

事故撲滅と安全運転技術向上のため、運転を数値で可視化できるSR導入を決定。

#### >SRを使った取り組み

毎月10日を安全運転推進デーとし、SR得点を順位付けて全社で競い合う。月間SR得点を、全事業所/個人別にランキング化し、所長会議で発表。全事業所が週1回、危険画像を見る時間を設定するなど意識付けを行う。

## フォークリフトでSRを活用



### JX金属コイルセンター 株式会社 様

#### >SR導入の経緯

フォークリフト 教習の徹底にも関わらず、まだまだ危険な運転が見られる。また事故発生時の画像検証のため。

#### >SRを使った取り組み

ある基準点を設定し、それ以下の人には、運転分析グラフで指導を行う。SRで危険運転と診断された人には、危険予知トレーニングシートで個別指導を実施。当初は基準点数の1/2程度の平均点であったが、現在は基準点をクリアするほどに運転技能が向上した。



### 大成運送 株式会社 様

#### >SR導入の経緯

客先構内の繊細かつ高度な作業による事故抑止のため。すでにトラックにSRを導入し有効性を実感していたため、迷わず導入を決定。

#### >SRを使った取り組み

SRで構内の危険地点(倉庫出入口など)を特定し、一旦停止や指差し呼称を徹底。旋回やバック走行時に危険挙動が見られたので、「バック時の3秒ルール」などを徹底した。SRデータは報告書として客先へ提出し、安全と品質をアピール。導入後の事故はゼロになった。

### 株式会社 トランス・グリップ 様

#### >SR導入の経緯

センター移転後、構内事故が多発。加害者不明の事故もあった。明確な評価基準がなく、管理者の主観による指導だったため、客観的で具体的な安全指導ができずにいた。

#### >SRを使った取り組み

SR業務日報を介し、作業員と管理者とのコミュニケーション向上を図った。SRの総合得点が80点以下の対象者に、フォークリフトの操作や運転の具体的な指導を実施。映像によるKYTで指導がより具体的になった。導入前14件だった事故が、昨年0件という効果が出た。





## 1 SRを使いこなして事故削減 (1)

ドライバーと管理者間での日々のコミュニケーションが不可欠。朝礼時や帰庫後の点呼では、SR得点で安全教育や指導とともに、積極的な声かけを実施。SR項目の点数を細かくチェックし、ドライバー各自の運転特性を理解することが必要。社内ランク表の掲出など、数値を意識させることで安全意識が高まる。

## 2 SRを使いこなして事故削減 (2)

ドライバーの安全意識変革に指導書は有効。ドライバーは運転のクセを見つけること、管理者は過去の運転診断データの変化を見て適切な運転指導を行う上で最適。バック事故は、「3秒ルール」の徹底やキャンペーン実施などが効果的。管理者、ドライバーともにマンネリ運用がないよう、事前に何らかの対策をとるべき。

## 3 SRを使いこなして事故削減 (3)

SR映像や散布図は、KYTにおいて効果的で指導がより具体的になった。また確実な事故報告にもSRは有効で、管理者、ドライバー間のコミュニケーションも円滑になった。SR得点だけでなく、点数の伸び率でドライバーを評価すべき。管理者は「ドライバーの安全を守る」という前提の上で、親身になった指導や対話も大切。

## 4 若いドライバーの採用と教育

魅力的な会社であることをアピールするため、スマホ対応の自社ホームページの求人にも力を入れ、SNS（ネットによる口コミ）も積極的に活用する。職種選択の自由度や免許取得制度、福利厚生などの受け入れ体制を整える。安全教育のほか、メンタリティやライフプランなどのサポートも必要。

## 5 労務時間管理どうしてる？

ほとんどの会社はエクセルベースの労務管理がほとんど。システム導入済みの企業でも、一部手作業の部分もあり効率化の余地もある。タイムカード+アルコールチェックの連動は有効であり、運行を含めて、一元的に労務管理できるシステムが望まれる。システムで管理した労務時間は、荷主への交渉もしやすくなる。

## 6 フォークリフトも安全運転で

車両特性など基礎知識が不足しているのが、研修などで補う。残業をなるべく減らし、搭乗時は同時操作をさせない。オペレータ資格のほか社内運転規定を設け、それをパスした人だけに運転させ、年に一度は技量チェックを行う。SRフォークリフトによる運転技術の見える化、映像によるKYTも有効なので積極的に活用したい。

## 7 運送業界におけるIoT活用検討

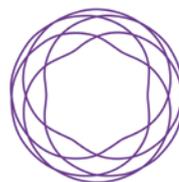
SRデータをサーバに蓄積することで、事故を起こしやすい人の傾向分析に役立つ。事故やヒヤリハット発生箇所と地図、現場映像などをひも付けることで、危険地帯を知ることができる。ビッグデータとセンサー技術は、今後の事故予兆や危険予知のキー技術になるが、現場で運用する人のノウハウ、経験値も重要になる。

## データ・テックがミライを牽引!!

### 経済産業省から地域未来牽引企業に選出

株式会社データ・テックは、経済産業省が選出する「2017年度地域未来牽引企業」における「地域未来牽引企業」として選定された。

地域未来牽引企業は、地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な役割を果たすことが期待される企業のこと。選定されることで、各経済産業局に配置された「地域未来コンシェルジュ」にアドバイスをもらえるなどの支援を受けられる。



地域未来牽引企業



これからも、SR普及と事故撲滅に社員一同全力でがんばります!

選定を受けて、データ・テックは、「SRの普及を通じて、世界から交通事故を無くすことを目指し、今後も安全運転、エコドライブ運転に貢献していく」と力強く意向を示した。

[本件に関するお問い合わせ]

☎ 03-5703-7060 (データ・テック広報室)

## 第8回 SRグランプリ エントリー募集



開催期間：  
2018年7月1日～  
2019年6月30日

- 部門
- ・乗用車部門 (2t未満) 団体・個人
  - ・小型トラック部門 (2～3t) 団体・個人
  - ・中型トラック部門 (4t車) 団体・個人
  - ・大型トラック部門 (5t車) 団体・個人

安全運転NO.1  
決定戦



第27回  
SRお客様交流会

2018年9月21日(金)開催予定  
東京・大田区産業プラザPiO

イベント、セミナーの詳細は、弊社ホームページにアクセス!!  
URL: [www.datatec.co.jp](http://www.datatec.co.jp)

株式会社データ・テック

〒144-0051  
東京都大田区西蒲田7-37-10  
グリーンプレイス蒲田11階

TEL.03-5703-7060  
FAX.03-5703-7063  
<http://www.datatec.co.jp>

2018©株式会社データ・テック  
SRNEWS\_VOL.70 1805C30-(0)